

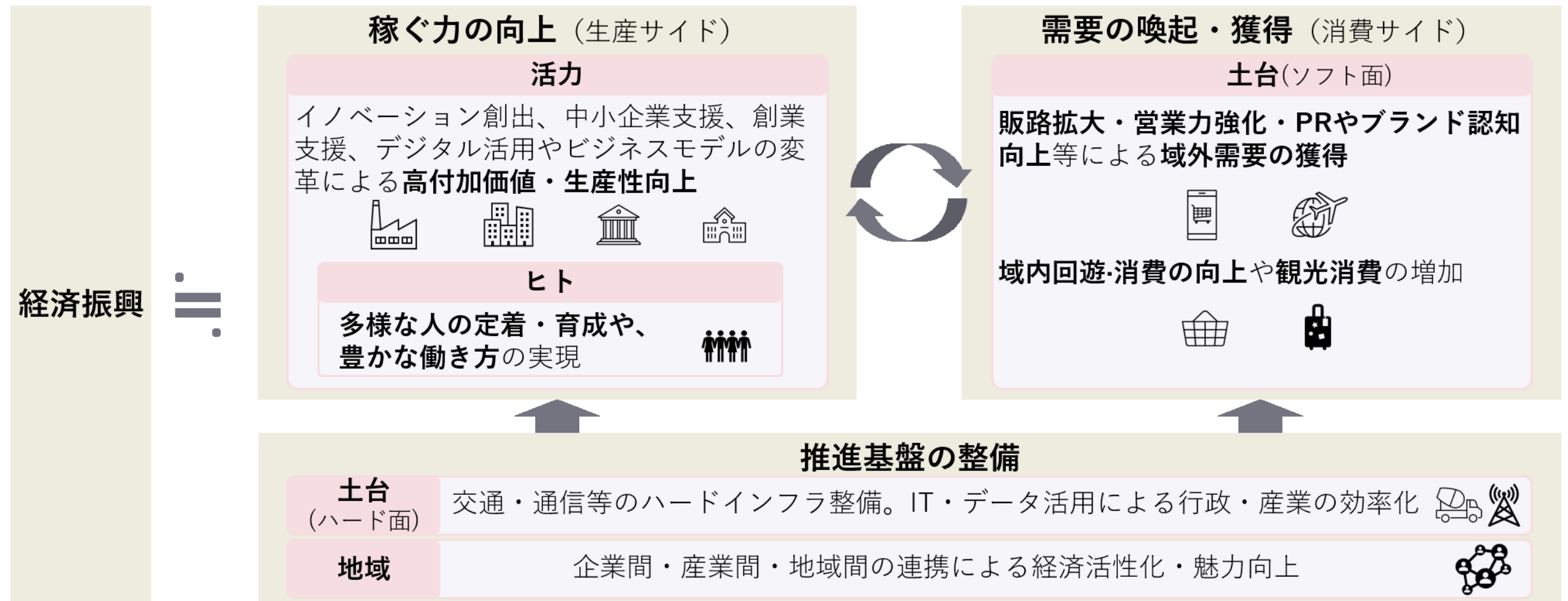
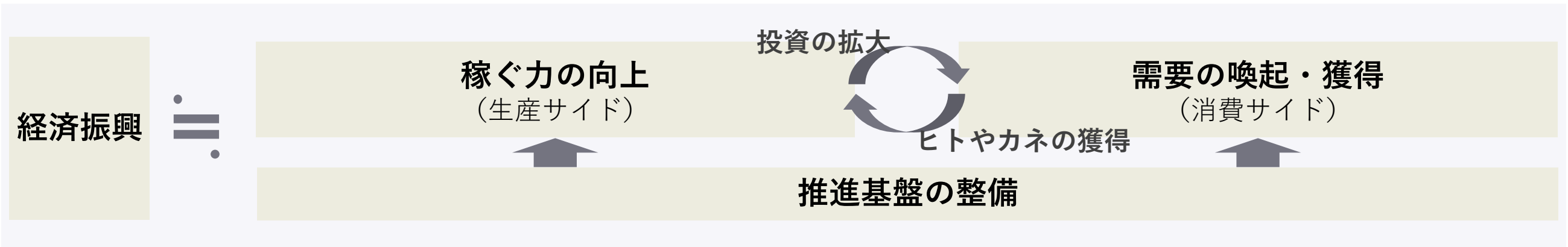
第2回姫路市経済振興ビジョン検討懇話会 意見交換資料

令和8年（2026年）3月27日（金）

姫路市 観光経済局 商工労働部 産業振興課

現状分析の観点

経済振興に関連する市の現状を、ヒト・活力・地域・土台の4観点で整理



姫路市現状調査

- 総合計画（ふるさと・ひめじプラン2030）に掲げられた「ヒト」「地域」「活力」「土台」の4観点から、市経済の強みと課題を調査

調査観点

ヒト	生産活動の要となる労働投入に対応する観点
地域	イノベーションの源泉としての、地域間・産業間連携
活力	ヒトと並んで生産活動に重要な、資本投入や生産性向上
土台	ヒト・活力・地域を支える基盤

調査結果

ヒト	<ul style="list-style-type: none"> ■ 20代の転出超過を中心とした人口減少や、女性労働力率・所得の低さ等、人材確保・活用に関する課題がみられる。人手不足の企業も多く、若者・女性・外国人材等の多様な人材を広く受入れるための環境整備や、賃上げ・人材育成が重要
地域	<ul style="list-style-type: none"> ■ 産業間連携や新分野進出に課題が見られる。製造業企業では、営業力や情報収集力の不足を感じている企業が多く、外部企業・大学等との連携を促進すること、イノベーションの仕組みを作ること等が重要 ■ 観光業では、日帰り・通過型の訪問が多いことが地域消費の伸び悩みにつながっている。交通網や周遊促進の仕組みが限定的であり、地域・産業間連携による促進が今後重要
活力	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人口減少や労働力不足が進行する中、10年後を見据え地域経済の持続的成長を実現するには、地域の強みを生かした産業構造への転換と競争力強化が不可欠 ■ 強みであるものづくり力を基盤として、デジタル、AI・ロボット等の活用による生産性向上を図るとともに、新製品・新技術の開発や新たなビジネスモデルの創出を促進することで、高付加価値化を目指すことが必要
土台	<ul style="list-style-type: none"> ■ 革産業等の地場産業は日本有数の産地であるが、PRが弱く市の知名度向上につながっているとは言い難い ■ 姫路は姫路城を目的とした観光来訪が多いが、市内周遊・滞在への広がりが十分ではなく、消費額の伸びに課題がある ■ ものづくりの現場・技術を観光と結び付けた観光体験や、姫路の魅力を国内外に伝える取組み、外国人観光客へのPRや体験型コンテンツの提供、海外販路拡大・製造業の魅力発信等・・・、地域産業の持続的な発展と地域活性化にむけた積極的な施策実行が重要

第1回 姫路市経済有識者会*

※経済・観光・国際の3つの計画の策定方法について議論



ビジョン策定の方針は・・・？

- **姫路の独自色があるビジョン**を作成する
- 経済・観光・国際に関する施策を別々に捉えるのではなく、関連するものとして捉え、**経済インパクトがある方策を打つ**
- 各企業や業種ごとの課題を詳しく把握し、**実情に合った方策**を検討する
- **10年後の将来像から逆算**して、施策やKPIを検討する等・・・

第1回 経済振興ビジョン 検討懇話会



本市の、10年後のあるべき姿は・・・？

- ① 人口減少社会・人手不足への対応
 - **AI・ロボット活用や、そのための教育**が重要
 - 子育て・女性活躍環境を整備。将来**Uターンしたい市**に
 - **”海外人材が来訪し学ぶことができる代表地域”**に
- ② 発信力の強化 ⇒ **「姫路と言えば〇〇」**が定着
- ③ 地場産業を革新し、**10年後の伝統産業を形成**等・・・

将来推計からの逆算（経済成長実現のために重要な成長投資）



- 経済産業省は、**投資増や賃上げの継続により人口減少下でも経済成長を実現**できると試算。具体的には下記3分野で大きな産業構造変革を起こし、経済成長を実現する想定である。姫路市においても成長投資が必要

経済成長実現のために重要な成長投資

ビジネスモデル変革、産学官連携・スタートアップとの共創促進等による、**高付加価値化の加速**

デジタル化・AI活用と自動化の深化

デジタル人材・技術者の育成

2040年の重要産業

製造業X

情報通信・
専門サービス業

アドバンスト・エッ
センシャルサービス

調査・議論結果を基に、あるべき姿(案)を策定（次ページ）

多様な人がつくる姫路。つながる世界。(仮)

市の課題

ヒト

- 若者・女性の流出
- 多様な人材雇用・働き方の促進が必要
- デジタル人材の不足

地域

- 企業間の連携不足
- 新技術の事業化やスタートアップとの連携が限定的、新たな産業創出の機会が不足

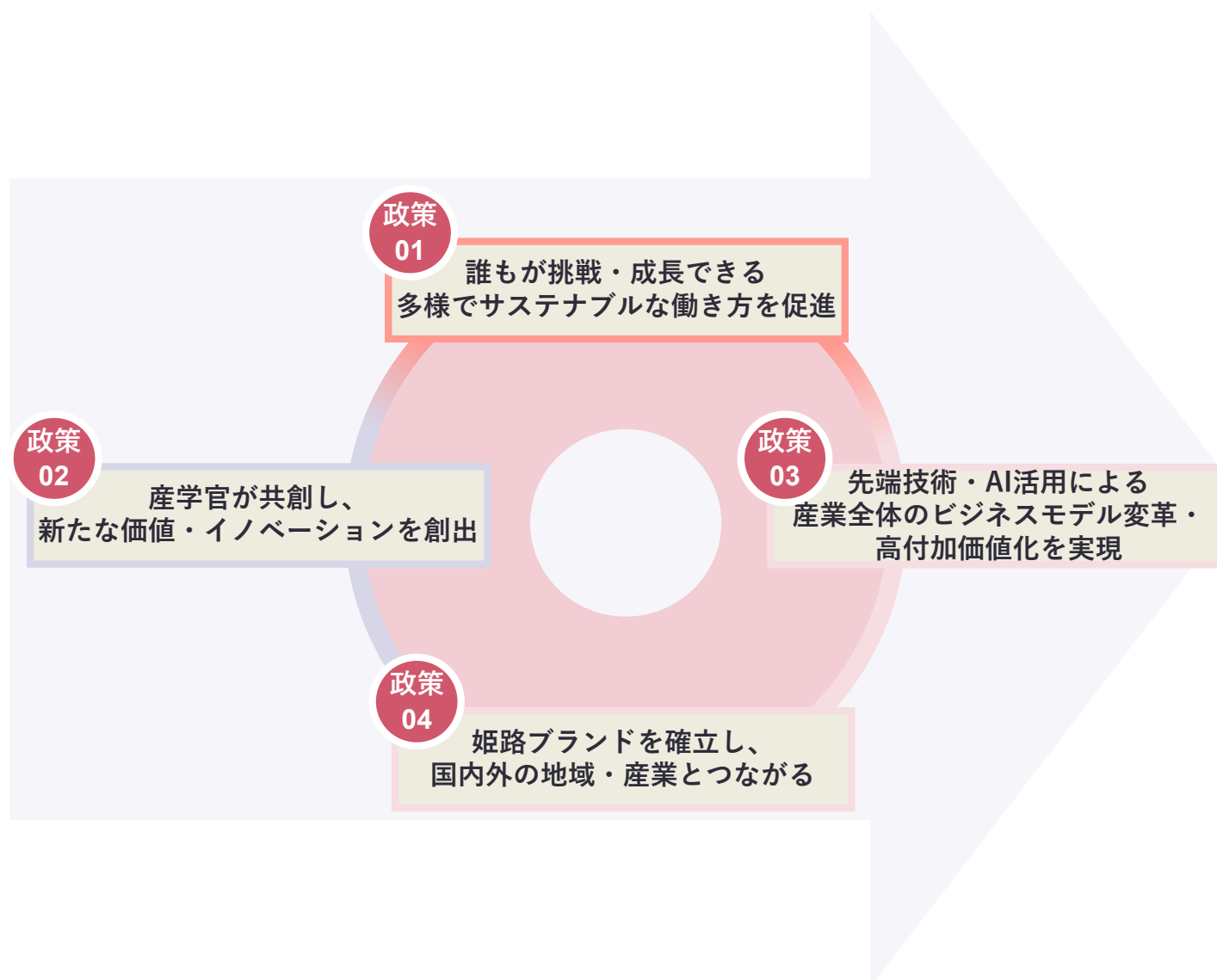
活力

- IT活用・DXの促進による収益性・生産性向上が必要
- ビジネスモデル変革による収益性・生産性向上が必要

土台

- 国内外市場において選ばれる産業への転換が必要
- 観光消費額の低さや滞在時間の短さ
- 海外展開ノウハウ等の不足

中期方針



10年後のあるべき姿

「多様な人がつくる姫路。つながる世界」(仮)

ヒト

地域に愛着を持ち、多様な人が活躍するまち

地域

産官学・地域がつながり挑戦と共創から新しい価値が生まれ続けるまち

活力

AI・先端技術を活用し、地域経済を牽引する活力が循環するまち

土台

“姫路と言えば〇〇”が世界に浸透し、関わり、訪れられるまち

政策01

誰もが挑戦・成長できる多様でサステナブルな働き方の促進

1. 働く場としての姫路市の魅力向上。ライフスタイルやライフステージに応じた労働環境づくり
2. 多文化共生環境の整備や、多様な働き方の促進
3. デジタル・AI人材の育成支援

ヒト

政策02

産学官が共創し、新たな価値・イノベーションを創出

1. 業種・分野・地域を越えた事業者の連携・共創を促進し、技術・人材・販路をつなぐ産業力の強化
2. 産学連携やオープンイノベーションの枠組みによる連携促進

活力

政策03

先端技術・AI活用による産業全体のビジネスモデル変革・高付加価値化を実現

1. IT導入、AI活用・DX実装の促進による生産性や収益性の向上
2. ビジネスモデル変革による高付加価値化の促進

地域

政策04

姫路ブランドを確立し、国内外の地域・産業とつながる

1. 高度加工技術と共創力を核とした姫路製造ブランドの確立
2. 市内企業の海外展開を体系化・横展開し、持続可能な海外事業力を育成
3. 成長分野の企業を誘致し、地域内で産業発展を促進

土台

例

多様な人がつくる姫路。つながる世界。(仮)

10年後のあるべき姿

要素

ヒト

地域に愛着を持ち、
多様な人が活躍するまち

- ・多様な人材が働いている
- ・姫路で育った子が大人になっても住み続けている
- ・若い労働世代が働きながら充実した生活を送れている

地域

産官学・地域がつながり
挑戦と共創から新しい
価値が生まれ続けるまち

- ・姫路・播磨地域の企業間の連携が活発
- ・姫路・播磨地域からイノベーションが生まれている/生まれる仕組みが形成されている

活力

AI・先端技術を活用し、
地域経済を牽引する活力が
循環するまち

- ・AI等を活用し生産性が向上
- ・高付加価値な商品を製造できる企業が増えている

土台

“姫路と言えば〇〇”が
世界に浸透し、
関わり、訪れられるまち

- ・姫路城を核とした観光ルートが広く知られ、「泊って楽しみたいまち」として知られている
- ・伝統産業に新たな視点が加わることで姫路の新たな側面として世の中に広く知られている
- ・姫路で生産された商品が世界中に広まっている

- 多様な人がつくる姫路。つながる世界。
- 価値を生み出すフロンティア産業都市・姫路
- 人が育ち、文化が生き、世界とつながる産業都市
- 姫路の価値を世界に発信し、多様な人が活躍する、豊かな産業・観光都市
- 世界を驚かす、城下町イノベーション
- 技術・人・文化が循環する“成長エコシステム都市・姫路”